

## 改善計画・結果報告書

平成21年5月22日

評価会議議長 殿

理 学 部 長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、平成20年度に実施した組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり改善計画・結果を報告します。

<b>要改善事項</b>
留年者数の多さと単位取得の低比率への対応に、一層の努力が必要である
<b>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</b>
1) 少人数指導体制を充実させ、さらにきめ細かい進級の助言・指導を行う。 2) 学科等によるカリキュラム等の進級基準の検討を行い、必要に応じて対処する。 3) 全学入試センターの協力を得て、入学者情報との関連を追跡調査し、入試の在り方も含め、対応を検討する。 注：2)と3)は中・長期的な課題である。
<b>改善結果</b>
1) に関しては、副指導教員制により既に実施している。 2) 3) に関しては中・長期的に検討中である。
<b>要改善事項</b>
国際性の向上に関して、一層の努力が必要である
<b>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</b>
1) 理学部・理学研究科の国際的広報を進め、受入留学生を増やす努力をする。 2) 短期語学留学参加学生への理学部としての補助制度を確立する。 3) 国際交流センターと連携し、外部資金調達、海外事情の情報取得等を推し進める。 4) 学部・大学院において外国語による講義・ゼミを増やすことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上と、留学生の増加を目指す。 5) 教員の国際的教育研究活動のつながりを、積極的に部局間の協定に発展させる。 6) 今後の採用人事において外国人教員採用を検討していく。 注：4)、5)、6)は中・長期的な課題である。

改善結果
<p>1) に関しては、理学研究科は、留学生向け入試要項の英文化を済ませ、ホームページ掲載を既に始めた。2) の補助制度は、運営交付金が使用できず、その原資に困難が生じたため、現在検討中である。3) に関しては部内国際交流委員会を通じて積極的に情報を収集・交換を実施している。4) 5) 6) は長期的に検討中である。</p>

要改善事項
<p>就職支援の強化に、一層の努力が必要である</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<p>1) 現在の就職担当委員会（キャリアアップ支援委員会）による積極的展開を推進する。</p> <p>2) インターンシップの単位化により、積極的に職場体験の機会を持たせることを推し進める。</p> <p>3) 就職担当委員の次期委員への引継ぎを1月からとして、次年度に継続する就職関連行事への対応を行う。</p>
改善結果
<p>1) に関しては、3) に関わる対応により、積極的支援を推進している。</p> <p>2) に関しては、平成19年度に入学者に向け、別表に記載した。平成21年度からインターンシップを実施する。</p> <p>3) に関しては平成21年度1月より実施した。</p>

要改善事項
<p>理学部・理学研究科の組織について（重要事項決定のための手続きが複雑、雑事が多い）</p>
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<p>1) 学部長のリーダーシップの下で部内の委員会を再編・集約し、会議の削減を行う。</p> <p>2) 教授会の回数あるいは時間数を減らす検討を進めていく。</p> <p>3) 授業アンケートの回数を減らす、評価関連の作業を単純化するなど、全学に要望する。</p>
改善結果
<p>1) に関しては、理学部運営委員会が複数の委員会（人事管理委員会、施設管理委員会等）を兼ねることにより、効率化への取組を既に始めている。</p> <p>2) に関しては、審議事項の多くを運営委員会に委譲し、また会議へのプロジェクターの導入等により、教授会の時間の短縮に努めている。3) は、今後とも全学に要望していく。</p>